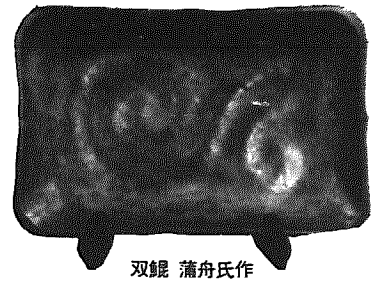


# 町のどろろと

## 彫金家 亀倉蒲舟・康之・彬父子の三人展開く



双鯉 蒲舟氏作



亀倉蒲舟氏(右)と彬氏



「街角」彬氏作

彫金家・亀倉蒲舟・康之・彬の「三人展」が北部地区公民館で一月十五日(水)から十九日(木)まで開かれました。これは教育委員会が「町の芸術家シリーズ」の一環として開催したものです。

三氏とも黒埼出身で、蒲舟氏(七九)は日展会員、県工芸会顧問などを務め、第一人者として活躍しています。康之氏(五〇)は長男。新潟市内野にアトリエを持ち、県工芸

会会長。三男彬氏(三九)は蒲舟氏と同じく金巻で製作活動を続け、県工芸会会員。

会場には「砂漠・敦煌」「街角」三氏の代表作四十点のほか、スケッチなどが飾られ、彫金の世界がこもり出す美に包まれていました。

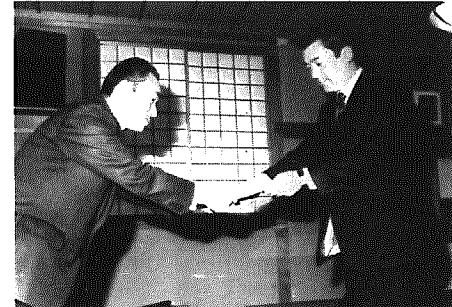
中国をテーマにしている彬氏は「三人一組の展覧会を開くことはなかなかないのでたいへんうれしい。これを機会に一層製作に励みたい」と話しています。

蒲舟氏は「不器用なので彫金しかできないと思います。今年で続けてきた。今年で東京から戻って四十年。ここにアトリエを持ってよかった。まだまだ製作していきたい」と話しています。

## 佐藤秀男さん防犯灯を寄付。北場に善意が灯る



善意の佐藤さん



大野と北場を結ぶ県道内野―亀田線の歩道に防犯灯が昨年未、十一基設置されました。これは佐藤秀男さん(鳥原)が寄付されたものです。佐藤さんは昨年三月にも町に五十万円寄付され、須上線に防犯灯をつける資金になりました。

この県道は以前から防犯灯が要望されていました。北場自治会長の長谷川茂さんは「鳥原バス停が出来、利用する人が多いので前から心配していた。これで安心できます」と話しています。

北場婦人会長の柄沢トミさんも「子供が中学校に通い、クラブ活動などで夜遅く帰ってくる時がある。わたしもよく利用しますし、親子ともよかったです」と喜んでいました。

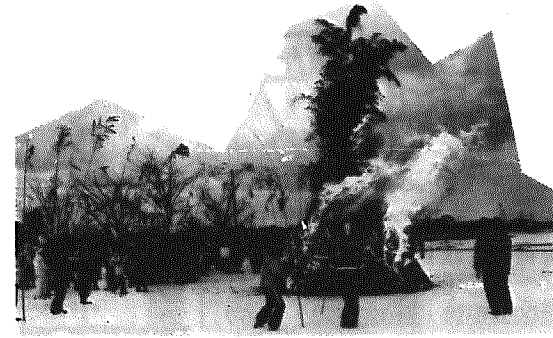
佐藤さんは「町で仕事をさせて頂いていますし、北場はわたしの父が生まれたところ。須上線の防犯灯がたいへん喜んでもらえたこと聞いたので、わたしにできることならば」と謙虚に話しています。

銃剣道県大会  
昨年十一月二十八日に新津市体育館で開かれた全日本銃剣道新潟県選手権大会で、黒埼支部の笠原満夫五段が出場し、三位に入賞しました。

黒埼支部では、笠原さんの日ごろの練習の賜と思い、支部の実力を県内に示したと喜んでいきます。

(谷内田正一さんからニュースを頂きました)

## 炎と甘酒に酔う 立仏でさいの神



一月十五日(水)、立仏で「さいの神」を行いました。戦前はどの地区でも行われた冬の風物詩ともいえる行事で、近年各地で復活し始め、当日は、金巻、大野五区などでも行われました。

立仏では三回目。地区民総出で、スルメやおでん、甘酒などで楽しみました。また、岡村義弘さんが居合抜きを見せ、拍手を浴びました。

公民館長の阿部寅一さんは「新住民が多いので、一つの触れ合いの場になればいいと思います。子供やお母さんがたが喜んでくれて、来年も続けたい」と話しています。

## 青春村テレビ放送

青春村がテレビで紹介されました。一月二十九日(水)、東北六県と新潟県で放送されています。

一月十四日(火)、十五日(水)に仙台の宮城テレビが「沈帯化している青年活動にカツを入りたい」と青春村の活動取材していききました。

インタビュに答え代表の乙川哲夫さんはこう話しています。「何をやるために青春村があるわけではありません。何でもできるのが若者なので。その場が青春村です」。

青春村の連絡先は☎2254(夜間)です。

七十人が走りをはじめ  
元旦マラソン  
今年で十三回を数える元旦マラソン。約七十人が参加しました。元旦はあいにくの雨で毎年二百人近い参加者があるのですが、  
それでもスタートの十時には雨が上がりほとんどの人が完走できました。参加者には福引があり、全員に景品がわたされました。

コースは役場前から中の口川堤防で、三コースに分かれています。

四キロ(塩俣橋前折返し)、二・二キロ(聞念寺前)、一・五キロ(金巻公民館前)です。

## 短歌

## 短歌会

秋の陽をうけて静かな日本海なごきに寄する小波もなぐ  
降りしきる雨に散り舞う銀杏の葉目をこらしつつ自転車ごとく  
僅かなる落葉なれども長雨の泥にまみれて今日も暮れゆく  
年の瀬に賑わう市のシクラメン心みみてしばしたたずむ  
菊江葉日本中の晴着かな小波大人の句の味つきず  
除雪車の唸るわが町朝発ちて燦々陽の照る息子の街に來ぬ  
付値には売れぬと言いいし寒梅を一鉢買いいぬ呼び返されて  
来年は何かよきことあるように一つの柿に初雪かから  
我が庭の木の實ごとこと食い漁り棕は勝鬨揚げて飛去る

宮田 ミイ  
阿部 淨子  
堀内 昌江  
金内 セツ  
柏 直樹地  
泉井 ヨ子  
平松清治郎  
小出美喜子  
小林

## 俳句

## 黒埼俳句会

初春に孫からもらふのし袋  
とんど焼き終りし後の祝酒  
朝酒も餅もいただき初御空  
寒の入りまこと違わず荒れ始む  
雪野行く狩人一人犬つれて  
縁側に日溜りありぬ冬の蠅  
生け花の屑かたつづける掃納  
雪やみてだいたい色の夜明けかな

鷺頭 静江  
那須野宗一  
浅間 しげ  
滝沢 ちえ  
長谷川 一定  
菊地八重子  
神原 孝子  
木下 富代

夫の忌や記憶の中の耳袋  
掛軸を日の出に替えて歳仕度  
初鏡着がなき顔紅すこし  
元日や東ねてありし年賀状  
仏の座一草足りぬ粥祝ふ  
珍らしやかばちの膳は冬至膳  
兄の居る故郷の餅有難し  
小春日や天使髪の降るような  
初針に夫のボタン一つかな

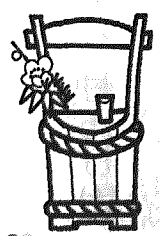
小泉 翠  
早川 ウメ  
斎藤 美芳  
斎藤モト  
鷺尾 サヨ  
田辺 正二  
高橋 睦治  
白川 代香  
佐藤 キン

## 漢詩

祝先輩傘寿  
三元淑氣滿晴空  
送別無限笑語同  
借別離回過四十  
嘉春共傘寿祈通  
一東韻

せんばいのさんじゆをしゆくして  
さんげんのしゆくきせいくうにみつ  
きゆうをおくれば  
しょうおなじくかぎりなし  
めぐりすぎてよんじゆうねん  
はるとともにさんじゆを  
かせばよろこびつうず

一九八六年一月  
(注)傘寿：八十歳 三元：一月一日



※今号「町かど」休載  
しました。投稿お待ち  
しています。